問 新産業創造課 ☎ 74 - 1464

頑張る中小企業を応援
中小企業支援制度

市内商工業の振興を図るため、中小企業のみなさまの経営安定と事業拡張などを支援する制度をご案内します。従業員 50 人以下の条件について一部撤廃しました。

◆丹波市中小企業資金融資制度

平成 29 年度融資利率：年 1.10%（固定）
昨年から 0.05%引き下げ

■資金使途 / 運転資金・設備資金
■融資限度額 / 運転資金 1,500 万円以内、設備資金 3,000 万円以内
■融資期間 / 運転資金：5 年以内、設備資金 :10 年以内
■取扱金融機関 / 但馬銀行、みなと銀行、兵庫県信用組合、中兵庫信用金庫本店・市内各支店、丹波ひかみ農協本店・市内各支店
■その他 / 運転資金の融資において、信用保証協会の保証を付する場合、保証料の 3 分の 1 を補助します。

◆丹波市設備投資支援事業補助金

■対象事業 / ①店舗などの新築および改装事業②福利厚生施設の整備事業③合理化施設（30 万円以上の機械設備など）の導入事業
■補助率および補助金額 / 対象事業費の 10%以内（上限 30 万円）
※必ず事業の着手前に交付申請書を提出してください。

◆販路開拓支援事業補助金制度

市内の中小企業者が販路拡大・販売促進のために、自社の商品またはサービスなどを紹介する、市外で行われる展示会や商談会などへの出展にかかる経費の一部を補助します。

■内容 / 市外で行われる展示会などの出展にかかる経費を最大で 10 万円補助（対象経費の 2 分の 1 以内）

中小企業の元気を応援！
地域工場・中小企業等省エネルギー機械設備導入支援事業補助金

市内中小企業が、既設設備・システムの更新などによりエネルギーコストを下げる際に必要な費用を補助します。

■補助対象事業者 / 中小企業・工場などで、市内で 1 年以上事業を営む事業者
■補助内容 / 補助対象経費の 3 分の 1 以内
※上限 100 万円、1,000 円未満切り捨て
■対象設備 / 燃焼設備（高効率ボイラーなど）、熱利用設備（ヒートポンプ式熱源装置など）、電気使用設備（高効率制御冷蔵庫など）、空気調和設備（高効率マルチエアコンなど）、給湯設備（ヒートポンプ式給湯機など）、照明設備（LED 照明器具など）
■申込方法 / 申請書・事業計画・予算書・見積書・導入設備の省エネ効果を具体的数値により証する書類などを提出　※ 1 事業者 1 回限り
■補助期限 / 平成 31 年 3 月 31 日まで

丹波市企業ガイドブック

市内の企業情報をまとめた「丹波市企業ガイドブック 2017 年版」を作成しました。「市内で就職したいけど、どんな会社があるの」「工場を立地したいけど、どんな会社が立地しているの」など、市内企業の情報がぎゅっと詰まったガイドブックです。

■内容 / 企業情報、採用実績、先輩社員のメッセージなど
■配布場所 / 新産業創造課（春日庁舎 4 階）、各支所

市長コラム
丹波語り
恐竜を活かしたまちづくり - 約１億１千万年前からの贈り物 -

1月15日、ＮＨＫの人気番組「ダーウィンが来た！」で丹波竜が取り上げられ、高視聴率を記録して一躍全国に「丹波竜・丹波市」の名が知れ渡りました。放送をきっかけに、全国で「恐竜化石によるまちおこし」を進めている自治体と連携しようと思い立ちました。

丹波竜化石の発見者の一人であり、発見場所の上久下地域自治協議会会長の村上茂氏とも相談して「北海道むかわ町」「熊本県御船町」に連携を打診し、両町長から快諾いただきました。

平成28年度に「丹波竜の里」事業が完成し、4月1日に完成式典を行いました。関係者や地域住民など約１２０人が集まり完成を祝いました。「丹波竜の里」をはじめ、恐竜を活かしたまちづくりを市内外へ発信するには、今が絶好のタイミングです。今後は、篠山市も加えた４市町共同で、恐竜にちなんだ特産品を開発、互いにアイデアを出し合い、自治体の広域連合を組んで情報発信していきます。

人口が減少し、「賑わいが失われていく」ならば、「活躍人口を増やす」「交流人口を増やす」などをし、人が交流する機会を増やす必要があります。むかわ町長・竹中喜之氏からは「恐竜の絆が〝未来の翼〟として大きく羽ばたくことを強く願います」とメッセージをいただきました。

歴史上まれにみる人口減少期に、約1億1千万年前に生きていた恐竜たちが永い眠りから目を覚ましてくれました。「丹波市の親善大使」としての役割を果たしてくれる彼らに感謝しつつ、思う存分の活躍を期待しましょう。近い将来丹波から恐竜博士が誕生するような予感がしてきました。

むかわ町・兵庫・丹波市・熊本・御船町
恐竜のまちづくり連携へ

北海道新聞　平成29年2月18日掲載

丹波市長　谷口進一

丹波市 地域おこし協力隊
地域おこし協力隊の活動を報告します

農業を学び　新たな担い手となる
高野　亨（りょう）さん　vol. 7

経歴：伊丹市出身。大学卒業後、港に出入港する内航外航船舶との通信を通じ、効率的な港の運用を担う民間会社に就職。海に囲まれた生活から一転、農村生活へ。

はじめまして。昨年 11 月から地域おこし協力隊員として、農業の新たな担い手になることをめざして勉強中の高野亨です。市の非常勤一般職員として週 5 日勤務し、農業実習と事務の 2 つの仕事をしています。週の 3 ～ 4 日は農業、週の 1 ～ 2 日は職員として働く「半農半公」という仕事スタイルです。

農業は、人の生活に密着した成長分野で、魅力的でやりがいある仕事です。農業の経験がない私にとって実習は体力・気力が必要で、大変です。自然が相手なので、安定した収入を得るためには戦略も必要だと実感します。

農業をしたいという長年の思いを叶えるからには、農業で生計が立てられることをめざして頑張ります。実習先の先輩農家さんはもちろん、農業の先輩、市民のみなさん。畑で私を見かけられた際は、ぜひ色々と教えて下さい！

畑で実習中の高野隊員